注一、當日陳列書類

一北蝦夷圖說　十冊
一蝦夷風俗彙纂前編　一冊
一仝　後編　一冊
一蝦夷國風俗人情の沙汰　一冊
一蝦夷語彙　一冊
一アイヌ語會話辭典　一冊
一毛志保草　一冊
一アイヌ語辭典及文法　一冊
一北海道道名國名郡名考　一冊
一東韃紀行　一冊
一北海道志　二十五冊
一邊要分界圖考　七冊
一韃靼物語　一冊
一北島志　四冊
一北齋備攻　一冊
一三國通覽圖說　一冊

注二、北蝦夷古謠遺篇　金田一京助氏著

墨西哥

文科二部三年　前田、常陸、須田、鈴木

皆様は今日新聞雜誌等に於て墨西哥と亞米利加合衆國との關係が如何に困難であり又複雜して居るかと言ふことは御承知のことゝ思ひます、此の時に於きまして特に墨西哥に付いて申し上げるのも無益のことでもなからうか、と思ひまして是に簡單に申して見たいので御座います。

そこで先づ之を二方面から御照會いたさうと思ふ、一つは地理上に於けるメキシコで最一つは歷史上より見た墨西哥であります。

地理上より見たる墨西哥は先づ六つに分つて、即ち位置●面積●地勢●氣候●產業●住民に付いて說明致します。

墨西哥の位置は合衆國の南に位して略〻三角形の狹地をなして居ります東はメキシコ灣及カリブ灣に面し南は英領 Hondras Guatlmala に連り西南は大平洋に面して大部分熱帶に屬して居ります。

面積は太平洋中の Rehilla Gigedo を合せて我國(併朝鮮)の約三倍で、七六万七千方哩であります。

地勢は南北亞米利加を通じて西部沿岸を通つて居ります山脈をコーゼナル山脈と申します此の山を墨哥西では特にシエラマドレ山脈と申します此の山は

臺地の東西の線を作つて居ります此の高原は北部千二百米位より順次南に赴くにつれて高さを增し二千三百米位に達して居ります此の山脈の間には又火山の現象が活潑であつて主なるものは南部にありまして最高のものを「ポポカテペトル」と申しまして富士山より千米位高くて五千米以上あります。

河流は中央の高原から東西に流れますが中央高きため急下し瀑布深淵を作つて長く大きな物はまれです、湖沼も亦少くは御座いませんで山間に於ましては中々風光の明媚な所があります。

海岸は合衆國の東部及び南部沿岸に於けるが如く平直でありまして沙洲が發達し潟が多くあります、良港に乏しいのです。

氣候は緯度の上よりしますと熱帶でありますが而し土地の高低によりまして垂直的に分布があります、沿海地の低き濕潤なる地から千米の高き地までは熱帶區でありまして暑氣大に健康に適しません、千米より二千五百米までは溫帶區でありまして氣候溫和に甚しい激變もありませんが二千五百米以上は寒帶區とも申して宜しいが空氣乾燥して寒冷の時には多少の霜雪を見るのであります、それから尙北緯二十八度以北は四季の別がありますが以南は乾濕の二期に分れてありまして濕期は五月から九月までで大雨を降らし時々烈しい俄雨があります、乾期は十月から翌年の四月までの間で殆んど降雨がなく大風沙塵を捲き人蓄に害を與ふる事が多いのです、

產業は其の主なるものを申しますと、農業は土地の高低氣候によりまして異つて居ります農產物の主なる者は大麥、小麥、トーモロコシ、コーヒー、ココア、バニラ、バナナ、綿、カンペチー等であります高原地からはサボテン、マツキー等が出來ます、此のマツキーより取ります麻は銀に次ぐ重要輸出品であります、鑛山等は頗る盛でありまして金銀銅石油が主なもので就中銀最も多く世界第一であります其の外工業、水產業等共に勃興しつあります。

次に住民に付いて申しますが此の地方の人口は我朝鮮と均しく約千万人で之を面積に比例しますと一方哩に僅に十八人位であります、人種は主として白人種(主としてスペイン人多し)土人、混血族でありまして、最も多いのが混血族です言語はスペイン語が

行はれ宗教は政府とは關係なく最も多きはローマ舊教で此についで新教であります、教育は强制的でありますが一般に普及致しません。

次に墨西哥の歴史の方面にうつりますが之を先づ二ツの方面に分ちまして第一は太古より今日に至ります沿革に付いて申し、第二は最近米墨問題に立ち至らん考であります尙沿革は更に之を三ツに區分致しまして第一が太古の墨西哥、第二、イスパニア殖民地時代、第三、共和政時代、此の三方面に分つて申します。

太古の墨西哥。元來世界の文明の發源地として五大中心がありますエジプト、メソポタミア、印度、支那、メキシコでありまして墨西哥は世界でも早くよく開けた國として言はれて居りますが而し、他にあまり影響を及ぼさぬ所から他の諸國の如くあまり世間に知られて居りません、が少くとも、四千年若しくは五千年の昔に於きまして或る程度の文明には達して居つたのであります、然るに建國僅に八十餘年の間に三十年の平和時代を除く外は內訌が切りにおこりまして隣境は其の虛に乘ずるの有樣で、國力の發展に大阻碍を與へしことは蓋し少くはありません。

メキシコ最古の住民は現今メキシコ、ベラクルス等に住するアズテクインディアン人の祖先トルテク人で有りまして八九世紀頃已に稍文明に向つて居りましたが十二世紀頃アズテク之に代りて國權をとりました此の頃又メキシコと云ふ種族も居りましたメキシコの名はこれから出たとの事です此等の種族は此方より來て先づ太西洋岸を征し次第に勢力を振うて其領土は太平洋迄も擴がつてゐましたそれで此等の人民も亦稍文明に進み形象文字詩文歴史も精密なる曆(一年を十八月とし毎月を廿日宛としたり)もありました農業も發達して工業もありました上には獨裁の君主がありまして僧侶と戰士とは社會の上級を作つてゐました其都をメキシコと云ひまして宏壯の宮殿がありました。

然るに一五一九に至りてイスパニアのキューバ總督ベラスケスは其前年卽ち一五一八に繁榮なるメキシコ王のある事を發見しましたのでエルナンコルテスを遣はして之を征伐せしめましたコルテスはベ

ラクルスに上陸し此所を根據として土兵を率ゐて都メキシコを攻め一旦貢國としましたが土民叛亂を起したるを以てコルテスは兵力を以て之を鎭定し一五二二メキシコを收めて全く西國の領とし名をヌエバーエスパニアと改めました。

イスパニア殖民地時代　爾來西國では總督を遣はして之を治めてゐましたが其殖民地は本國の利益のみを計りて毫も殖民地の經濟的發展を顧ず總督判事以下あらゆる官吏は殖民地の事情に暗き西國人を採用しましたから賄賂を貪り惡政を逞くし其治績の見るべきものなく之に加ふるに西國の製作品以外の一切の外國品の輸入を嚴禁しましたが故に生活の不便は少なくありませんでしたマシラヤエスイタ教に屬する僧侶は宗教上より土人を壓迫するに於きましては殖民地の人民も默してゐる譯には行きませんでした丁度其時卽ち十八世紀の終り頃に北米合衆國が其獨立を大成いたしました此に及んで殖民人は益々其例に倣つて獨立しようとするの希望をもつ樣になり終ひに一八〇九那翁か西國を侵略しようとするのに乘じて一八一六反旗を擧げ一八二一哀運に向ひつゝある母國と全く關係を絶つて獨立したのでありますそして其翌年帝國と云つて西國の佐官でメキシコを創立したイツルビード推されて皇帝となりましたが翌年之を伊太利地方に放逐し一八二三共和制をとる樣になりました。

共和時代、その後憲法も備へましたけれ共合衆國の樣に健全に發達しません之獨立以來國亂が間斷なくおこつて殆んど寧日がないからでありますから反亂の絶えまなき原因は次の三つに歸着する樣に思ひます、其の一つは墨西哥の民情に付いて、見ると內亂の原因の一つであることがわかります墨西哥は社會の狀態が三階級になつて居ります、最も多數なる一級をペオンと申しまして千五百万の人口中千二百万を占むるもので之等は無知昧蒙な勿論政治の何たること國家の性質をわきまへること等は出來ませんで革命黨の根源地なる北部諸州に集つて割據の地主の下に勞動に從事して居ります故に若し野心家か豪傑的人物出て多少の利益を以て之を誘ふか又言を巧にして煽動するならば彼等は其の人を首として革命を起すを常とします而も彼等は只目前の利益のみ圖つ

て國家統一の如きは敢て關知する所ではありません他の二階級を見ますのに西班牙人の血統多くて情熱强く理性を缺いて居ります尙最高位に在る政治家を見ますのに彼等は人物を中心として一つの主義綱領を中心とはしない從て其の政治上の爭も一私人の野心に出づる權勢の爭ひのみであります、斯く上下の者皆愚昧斯くの如くであります故一方より言ふと爭亂を樂み掠奪の機會を賴むが如き觀あるのであります、次は外國資本家の畫策が又墨國の革命の裏面には潛在して居るかの如く思はれます、元來メキシコの產業は多く外國人の手によりて經營されて居ります、外國人の會社は其の時の政府から特權を得て之を根柢として立つて居るのであります、故に若し時の政府が會社を厚遇しない場合又は他の競爭會社に味方する場合には該會社は軍資を出して革命軍を助け或は革命を敎唆し以て自由に自己の利益を圖り、時機の到來するを待つて居ると言ふ例が少くないのであります、例へば一九一一年マデロ革命軍の實を擧げんために要せし軍資一千万圓を超過すると言はれて居ります然るにマデロ及家族が之に出資した金額は六十万圓に出でない其の大部分は外國會社の供給によつたもので斯くして會社は皆自己の利益をはかりつゝあるのです次に申すのは米國政府の方針でありますが是も又關係して居る如く思はれます、墨西哥の革命に要する一切の計畫武器の購入等は米國に於て行はれて革命黨は米人の援助を得て常に米國國境附近より革命戰爭を開始するのであります而して米國政府は自國に於ける之等各種の計畫に對しては默認の態度を取つて居るのであります、斯くして米國は一方に於ては官軍の革命征伐を阻害しながら地方に於ては至急に平和を回復せんことを要求致しますので爲めに墨國政府が革命軍を追つて國境附近に來た時に尙之を追擊せんものなら彈丸米國に入るの故を以て國境附近の戰爭に反對しますので革命軍は國境附近を安全圈と心得て敗るれば此の地にしりぞいて又勢力を恢復すると言ふ樣に致しますので中中內亂は容易には定まりませんこの反亂の絕えない爲に國民の被る不幸は云はずもがなです、しかしそれは自業自得と云ふ事が出來ますが只迷惑なのは外國であつて黨爭のある度に其余沫を被つて損害を受けるの

であります故に國際上の問題數々起り外國政府はメキシコの亡狀を憤りて賠償を要求し兵力に訴ふる事もあります然るに戰勝を得る事は容易でも媾和するに當つて成功する者は稀であります之メキシコ政府の交代が繁くあるからでありますすればメキシコは些かも外國の干涉を恐れませんが只一つ憚つて居りますのは北米合衆國でありました一八三五時のメキシコ大統領は各州の獨立を廢し凡て中央政府に服すべき宣言を出しました然るに各州の反對多く殊にテキサス州は尤も之に反抗し一八三六遂に連合より脫し次いで合衆國に合同する事を宣言しました、メキシコ政府是を承認せず合衆國と談判を開きましたが不調に終り之が爲に一八四六兩國間に戰爭がおこり合衆國の軍隊は切りに勝つてテキサス州外ニユーメキシコ北方カリホルニヤを占領しました一八四八二月二日和議なりメキシコはテキサス州ニユーメキシコ、カリフオルニアを合衆國に讓り其代價として一五〇〇万ドルを受取る事となりました其後合衆國は一八六一—一八六五の間に南北戰爭がありましたこの內亂の爲に合衆國は其モンロー主義を施す豫猶がないだらうと思つてこの機を逸せず努力を米大陸に扶殖しようと企てたのは佛國王ナポレオン三世でありました當時メキシコに於ては大統領が財政整理の爲に一八六一一切の外債は今後二年間利子支拂を停止することを宣言しました英佛西の三國は其國民にメキシコ國債券を所有する者が多かつた爲に之に抗議を申込み相共に對メキシコ同盟を結び一八六一の年末西國先づ出兵し翌年英佛兩國の軍亦メキシコに攻入りました次いで協商が始まつてナポレオン三世はメキシコを帝國として墺國皇弟を皇帝としようと提議しました時に英西二國は早くもナポレオン三世の非望を看破して之に同意せず之が爲に三國同盟は忽ち破れ英西兩國は單獨に前メキシコ大統領と商議して當面の問題を解決し何れも其軍隊を撤去しました然るにナポレオン三世は獨りメキシコに止り豫期の通り一八六四メキシコを帝國とし墺國皇弟マキシミリアノを皇帝としました、然るに國人之に從ひません爲に叛亂が絕えませんとかうしてゐる內に北米合衆國は內亂を平げて內顧の患がなくなりましたのでモンロー主義によりて强硬の抗議を佛國に提出し若

し之に應じない時は一戰を試みようと云ひました佛王は戰の不利な事を知つてゐます終ひにメキシコに干渉する事をやめて一八六七歸國致しました之と共に反對黨の勢が大いに振ひマキシミリアノは敵に圍まれ詭計に陷つて前大統領の手に囚へられ軍法會議に附せられ死刑の宣告ををうけこの年六月其黨と共に絞殺されました此に復びメキシコは共和政となり其後稍小康を得ました。

然るに一九一〇に至つて今迄卅年勤續した此大統領デイアス氏が再び他の候補者マデロ氏を破りて大統領に選擧せられてから國内又紛亂相次き殆んど寧日がありません終ひに一九一一即ち明治四十四年十月に至りデイアス氏は外國に追はれ叛將マデロ大統領となりました、然るに又叛軍が起つて一九一三即ち吾大正二年二月に至つて、マデロ大統領の部將ウエルタと、前大統領デイアス氏の甥なるデイアス將軍との妥協的會見の結果、マデロは殺害せられ、ウエルタ氏が代つて大統領となりました。

此に於て先にマデロの拔擢を被つたカランザは猛然立て叛旗を飜し、憲政軍を指揮して、ウエルタ氏と爭ふに至りましたが、日英獨佛其他の列强は、墨國内の形勢に鑑みて、ウエルタ氏の大統領たることを承認致しました、獨り米國は彼の人格に嫌厭たらずして彼を目するに殺人犯人を以てし、承認を與へません、斯の如く兩者の間圓滿を缺く時に當り、ウエルタ氏はタンピコに於ける米人油田採掘權の割獲を阻止せんとしましたから、ウエルタ氏とウキルソン氏との間の反感は益太しくなりました。

然るに米國の民間政治家及政府部内に於ても、ウキルソン氏の對墨政策に反對の意見を抱いて居るものも少くありません。殊に駐墨大使のヘンリー、ウイルソン氏は墨國の内情に顧み、切に承認勸告を致しましたけれども、元より意見の一致を見ることが出來ませんで遂に辭職致しましたら、ウキルソン大統領はリンド氏を使節としてウエルタ氏と直接談判を開始し、左の要求を呈出しました。

1. ウエルタ氏は假大統領を辭職し、大統領選擧を行ひ、且つ自身其の候補に立たさること。
2. 双方革命戰爭を中止すること。

是が丁度昨年の十一月四日でした。所がウエルタ氏

は斷然之を拒絶し、米國公使カーデン氏の同情を始め、列國の傍觀的態度に力を得ました、北部地方に於ける大擧討伐に着手すると共に、一方には一般國民に對して、十二月二十六日を以て大統領選擧を行ふべき旨を發表し、そうして市民の信用を恢復せんと致しました、其後米國政府より再三の抗議があつたにも係らず、十月中旬クーデターを斷行して議員百三十名を捕縛し、廿六日選擧の結果、ウエルタ氏が大統領となりました、此の非立憲的態度を見て、米國のウエルタ氏に對する反感が、愈々甚しく、終に軍艦二隻を派遣して示威運動を行ふに至りました。

然る所先にウエルタ政府に同情をもつて居つた英國は、巴奈馬運河通航料問題に關する米國の緩和的態度（米國が獨り同運河通航料免除の特權を有して居るのですが斯くては列强の反感を買ひ米國に取つて大に不利益だと考へまして此の特權を棄てようと云ふのです）を顧み、其の對墨政策を一變し、カーデン公使をブラジルに轉任せしめましたから、獨佛其他の列强も、同情的態度を改むるの止むなきに至りましたので、ウエルタ氏は内外外交の難局に陷りました、而も尙屈する所なく米國の强硬なる抗議を顧みませんでしたから、米國は遂に憲政軍を援助し以てウエルタ政府を倒さんと計り、本年二月に至つて、米國商人に對し墨國輸出武器禁止令を解除致しました。（之は米國が前に墨國の内亂を長引かせぬために墨國に對する武器の輸出を禁じたのでした）次でベントン事件タムピコ事件が起るに及んで兩國の關係は益險惡になつたのであります。

此のベントンと云ふのは、英國人で、墨國に牧場をもつて居りましたが、版軍ヴイラ將軍部下の兵士に其の牧場を荒されましたので、單身ヴイラの下に赴いて抗議を申込みました所、ベントンはヴイラに對して叛亂を企て、又、ウエルタに味方したとの表面上の理由の下に、彼を銃殺せしめましたから、英國に於ては大そう輿論が沸騰致しましたけれども、英國は米國を難局に立たしめることを欲せざるものの如く、單に賠償金を以て滿足することに決しまして、一段落を告げることが出來ました。

而して今回兩國開戰の導火線たるタムピコには、外國諸會社の經營に關はる油槽がありまして政府側の

砲艦が海上より發砲しますと、爲めに油槽の引火爆發を起す事がありますので、米國は一隊の海兵を派して之を守らしめて居りました、所がウエルタ軍は無法にも之を捕縛したことがあり、又、米國兵士が郵便局に便する途中、墨國兵士の辱しめらる所となりたる事　あります、斯く墨國に於ける米國人の待遇は一般に宜しくないのに加へて、四月十日に所謂海兵捕縛事件なるものを惹き起しました、即ち、同日、米國砲艦ドルフイン號の乘組員が、揮發油（一說には飲料水とあり）を買はうとして上陸しましたら、ウエルタの兵士が忽ち之を抑留し、剩へ、米國國旗に對して汚瀆の行爲を敢てしたのです、此に於て米國はウエルタの謝罪と、米國國旗に向つて發砲禮を行ふべきことを逼り、又一方には海軍大示威運動を開始するに決し、大西洋艦隊全部に出動の命を下しました、是が十四日のことであります、米國か斯樣に强硬に出ましたので硫石剛情なウエルタも、色々と考へました末、十六日に至り米國代理大使と會見し、米國軍艦にして答禮すとならば、墨國は發砲謝罪の意を表すべし、と申込みましたが、米國に屈するはの如何にも殘念であつたと見え、翌十七日には答禮砲は墨國發砲一發每に發射せられたいと云ふことを要求致しました、然れば米國はウエルタ氏の行動は全然北米合衆國の國威を無視するものと認めて斷然此の要求を拒絕するに決し、ウエルタに對して最後の答を促しました、所がウエルタは期間に至つても禮砲を發せざるのみか、却て斷乎として米國の要求を排する最後の通諜を送りましたので、米墨の交渉とも早斷絕するの余議なきに至りまして、此に米國大統領ウヰルソン氏は、「ウエルタ氏膺徵」を名として、宣戰布告をしたのであります。

米國はこの樣にウエルタ君膺懲のため、又は「墨國民には敵意を有せず」と云ふ宣言の下に、事實上墨國に對して戰鬪行爲を開始しました。墨國及國民に敵意を持たないで墨國國內に戰を開くの奇怪なるは勿論墨國及其國民に敵對しないで、兎も角も歐州列强及我國の承認いたしました所の假大統領ウエルタ氏のみを膺懲しやうとすると云ふことは、事實上不可能なとは云ふまでもありません。で一寸考へて見ますのにこの一句こそ米國政府の苦心の存して居る

所と思ひます。卽「ウエルタ君膺懲のため」と申します裏面には、「カランザ君掩護のため」少くともカランザを主腦とする、墨國憲政軍に好意を持つと云ふことの暗示なので御座います。

そして突然米國政府は墨國東岸のヴェラクルース港を砲擊してヴエ市と其稅關とを占領しました、でウエルタ政府のために、これまで兵器彈藥の供給であつた獨乙汽船は、ヴエ港占領後多くの小銃彈藥等を積んで同港に達しました。けれども同艦隊の阻止命令によつて、米國司令官は獨汽船に謝罪し、更にワシントンに於て獨乙大使の抗議を見る樣になつたことは、何時もながら獨乙の機敏な外交策には嘆稱せざるを得ない所であります、又海底電線は目下の墨國として、北部憲政軍占領區域の陸線は切斷されて、ヴエ港が海底電線の集中點として外國との通報の唯一の要地なので御座いますから米國のヴエ港占領はこの點から見まして頗る有利なもので御座います

然るに形勢が一變して米國當局の最初からの所期は全く水泡に歸して仕舞ました。それはどんな譯かと申しますと、四月二十二日にカランザ將軍より米國に送つた通牒に起因する所で御座いまして、其要點は

1. 米國の行爲は如何に見るも墨國に對する戰鬪行爲なり。
2. ウエルタは潛稱者にして墨西哥共和國正當の機關に非ず、これが膺懲の任は我憲政軍これに當ればなり。
3. 米國はヴエ港より徹兵すべし。
4. タムピコ事件の謝罪要求は宜しくこれを憲政軍に交渉せらるべし。

と云ふのであります。で米國が最初から憲政軍を以てウエルタ政府に當らしめ進んではウエルタ政府を覆さうとした計畫は、全く豫期に反して、米國は敵を兩面に受ける樣になつたのであります。一方ウエルタ政府に取りましては、カランザ將軍の新態度を以て米國を牽制するのに利を得られる樣になりまして、米國は全く意外の難局に陷つたわけなので御座います。で、米國對ウエルタ政府の對抗はカランザ將軍が這入る樣になりまして三方面の對抗となりました。海陸共に戰備に汲々してつとめて居ります米

國も如何としても遠征軍陸兵五六万以上を出兵することは難しい實狀なので御座います。なぜと申しますに米國の兵制は海軍は其威力並に數から致しましても世界第五の位を占めて居りますけれども、其陸軍は非律賓、布哇、巴奈馬駐屯軍を除いて現在六万御座いますのみで、戰時に於きましても民兵動員令に依りまして十六万以上に增すことは出來ません。且つ小部隊は各地に散在して居りますから、武裝幷に給養等も少しも統一する所がなく、又集中には多大の不便を感ずるのであります。其の上に交通機關である鐵道は、私利を收むることに急なる私立會社の經營に係るもので御座いますから送兵力も遲緩でありますし、規定兵數の五十%は軍隊敎育ないものによつて補充されるので御座います。

然らば墨國は如何にと申しますとマデロ大統領となりまして一九一一年義務兵制を取り平時編成は學校三千五百、兵卒三万一千卽米國の動員し得る正規年の平數に當るので御座います。戰時には將校三千七百、兵卒八万五千で且つ騎兵六万余を持つて居ります。墨國民は生れながら好個の騎兵たるに充分でありまして、馬は矮少では御座いますが勁健で耐久力に富んで居ります。この樣なわけで米國が墨國と戰つて勝を制し得るには二十万の陸軍がなくては叶はぬので御座います。

以上の兵制より見まするにも、ウイルソン氏は墨國と戰ふの不利を知つて居ります。且つ氏が大統領となつた初に、モンロー主義に出でんと宣言したこともありますので、かた〴〵容易に戰意を決し得ぬものと考へられます。で私かに外國の干涉をまつて居つたかの樣で御座います。一方墨國側より見ますに、ウエルタ氏も表面のみは强剛な態度で米國の提議を拒絕し、飽迄戰意を示して居りますが、目下內亂もありますことですから、內實は戰を好まぬやうで御座います。丁度其の時に當りましてチリ、アルゼンチナ、ブラジル三ケ國が調停を試みました。三國の意志は米、墨に國を調停すると共に、ウエルタ、カランザ間の反感をもしづめ樣と云ふにあります。然るに二國はこれを承認しましたけれども、カランザは承認しません。で、止むを得ずカランザを措いてウエルタ對米國間を調停し、來る十八日(卽明後日)

調停交涉締結の筈になつて居ります、締結がどの樣に進行致しますかは勿論私——恐らく誰人にも——斷言いたす事は出來ませんでせう。で御度いますから此の先を知りたいと思召す方は、どうぞ明後日の新聞を御覽下さい。

最近の處は、歷史と云ふものゝ範圍にも入りませんことで、正確にまとめて調べたものも御座いませんから外交時報や、時々の新聞に多くよりましたし、且つ私共の幼稚な考で取捨したので御座いますから時に間違もあるかも知れませんし、不要なことをくどくどと申のべて必要な處を却つておとした所も隨分御座いませうが、其點は御容赦を願ひます。(完)

注一、當日 陳列書類

Charles Macomb Frandran — Viva Mexico
Carson — Mexico
Caza — The conguest of Mexico by Prescott
Burdick — Mexicana
Mary Barton — Impression of Mexico
Enock — Mexico
Humboldt- Fest schrift mexico
The mexican Yearbook (1911)
Sierras-wallace — Mexican
Sapper — Mexico
Terry — Mexico
Spence — The Myths of Mexico and Peru
Ciinter — Haudbnch von Mexico
Barrett — Mexico-pan American union
Gill Patrick — The man who likes Mexico
Mexicoenel Centenaelio de su Independencia

注二 この外繪葉書、人形、日用器具等を陳列せり